

大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム

長期プロジェクトコース プロジェクト報告書

株式会社大槻シール印刷

谷口聖空 ・ 中邨未悠

提出日：11/16

「活動記録と活動成果」

私たちは株式会社大槻シール印刷にて「おもしろいシールを作る」という目的を持ってプロジェクトを開始した。

まず前提として株式会社大槻シール印刷は「心を大切に、人が人として生きて行ける仕事づくり、会社づくり、地域づくりに取り組みます」という理念に基づいて、社員一人一人の個性を大切に、社会の中で必要とされる能力を育むとともに、心を込めた商品づくりを通じて会社の発展だけでなく地域の発展も目指している組織である。

また、受け入れ先が抱える課題として学生ならではの若い視点が不足していることを挙げた。それに基づき、製造業、ものづくりの現場から若者が離れていっている現実と中小企業・零細企業の自由さと厳しさについて理解してもらうこと、若年層の視点から考えた新案件の運用を課題解決の策として提示した。

具体的には、意見が通りやすい中小企業ならではの特性を活かした製品を制作すること、そして工場へ伺い、ものづくりの原点を知ることや社員の方から話を聞くことで、実際に製造業のどのような点が若者離れの原因になっているのか考える、とした。

私たちは活動を3つのフェーズに分けて、商品を作成した。第一フェーズとして「現場を見る」、第二フェーズとして「シール製作」、第三フェーズとして「成果発表」である。

1) 第一フェーズ「現場を見る」

まずどのような会社であるのか、どのような方が働かれているのか、どのような商品を取り扱っているのかを見るために会社訪問を数回行い、夏季休暇には職場体験を行った。

i : 会社訪問 (6/20,7/8,7/28,9/20)

会社訪問では、基本的な印刷技術やアイデア出しの方法について学び、プログラムの全体的なスケジュールを確認した。基本的な印刷技術については京都工場、滋賀工場を見学させてもらい、カット技術やカラー印刷の難しさ、印刷紙の種類などを学んだ。アイデア出しの方法については、既存の商品を置き換えてみることや道の駅やスーパーに行き、アイデアを得ることを学んだ。プログラムの全体的なスケジュールについては、8月にアイデアを出し、9月にアイデアを詰め、10月に行われる「中信ビジネスフェア」で製品についてフィードバックをもらうことを目標とした。

ii : 職場体験 (8/18,8/21,8/22,8/24,8/29)

職場体験では、事務作業と工場での作業を体験した。事務作業では、大槻シール印刷株式会社でいただいた案件をエクセルのシートに打ち込んだ。この作業からどのような案件をもらっていたのかを確認することができ、アイデア出しの手助けとなった。また工場作業ではシールを台紙から剥がし、数量を数える作業を行った。簡単な作業ほど集中力を保つことが難しく、従業員の方の集中力の高さを改めて感じる機会になった。また、ここでは障害を持たれていらっしゃる方にもお会いすることができ、障害者雇用に力を入れて多様な働き

方を推進している職場を見ることができたのは良い経験だったと考える。

2) 第二フェーズ「シール製作」

シール製作では「アイデア出し」「試作」を行った。全体的にスケジュールが甘く、本製作まで取り掛かれなかったことが悔やまれる。

i : アイデア出し

アイデア出しではスーパーに出向き、シールの用途や種類について学びプロジェクトに繋げるよう努力した。また、講義内で他プロジェクトの受講生から意見を頂いたことも大いに刺激につながった。出した案の中には、紙ストローが飲み物を飲んでいる最中にふやけてくることを課題に挙げ、紙ストローの内側に水に強いシールを貼ることでふやけを阻止するといったものやトイレットペーパーの使い始めに糊がついているがその糊があまり綺麗に剥がれないことを課題にあげ、水で溶ける素材のシールをトイレットペーパーに貼り綺麗に剥がせるようにするものなどを挙げた。その中で一番実行可能とする案としてスタッフシールが浮上した。

ii : 試作

スタッフシールを採用した経緯として、大学生である私たちには文化祭やゼミ開催のイベントなどに参加することが多く、その際に見ず知らずの人と接する機会が多い。そこで誰がどの役割であるかを把握することが難しく、一目でわかるスタッフシールを採用すればこの問題は防げると考えた。しかし市場を調べていくうちにスタッフシールというものがフェスや音楽ライブの裏側で使われていることを知った。まだ一般向けではないことに目をつけ、もっと機能性の高いスタッフシールを作ろうと考えたことがきっかけである。

そこで既存商品との差別化として「可愛い四季のデザイン」「QRコードを掲載可能」「色覚障害の方にも優しい色使い」「自分好みのデザインにできる」「サテン生地ではがれにくい」「自宅で印刷が可能」という6つの機能をつけた。また、商品名は「自分でアレンジ!? 簡単二次元スタッフシール」とした。

①「可愛い四季のデザイン」

市場を見た際にスタッフシールのデザインがシンプルなものが多く、一般向けに販売するなら可愛いものが売れるだろうと考え、日本人にとって馴染みのある四季のデザインを製品上部に取り入れた。

②「QRコードを掲載可能」

スタッフシールの左端に四角の枠を入れ、その中にQRコードを印刷することで簡単に購入者が広めたい情報をイベント来場者などにアピールすることができる。また、QRコードだけではなく、ロゴを入れるなどのアレンジも可能である。

③「色覚障害の方にも優しい色使い」

職場体験を行った際に社員一人一人の個性を大切にする社風を感じたからこそ生まれた機能で誰もが平等に楽しむことができる機能が商品には必要であると感じたため採用した。

④「自宅で印刷が可能」

販売する際に枠のみを印刷しておき、エクセル等でフォーマットを作る。そして購入者には印刷されたシートとフォーマットを販売する。購入者がそのフォーマットに必要な事項を入力し、自宅のプリンターにシートを設置し印刷することで自分好みのスタッフシールが出来上がるという仕組みである。

⑤「自分好みのデザインにできる」

自宅のプリンターで印刷可能のため実現した機能であるが、文字などを入力する際に好きなフォントでシールが印刷できるという特性がある。

⑥「サテン生地ではがれにくい」

サテン生地は布に馴染むため動いても取れにくい。そのため、艶があり高級感も感じることができサテン生地をスタッフシールに採用した。

次に活動成果を述べていく。

まず一つ目には何よりも、中小企業の良さ・特徴の理解、そして若者離れが生じている製造業に若者の視点を取り入れることによる活性化を目標とした際にその手段として設定した「シール開発」を達成できたことが挙げられる。学生の私たちが大学で感じたことをもとに生み出したアイデアはもちろん御企業には既存していなかったものであるからこそ、このシールを実際に形にできたことは活動成果として大きなものであったと言える。

次の二つ目には、まさにそのシール開発を通して得た中小企業ならではの自由さを実感できたことが挙げられる。中小企業の規模だからこそ、ものづくりの知識さえも十分になかった素人の私たちの突発的なアイデアが通ったのであり、それだけでなく「ここはこうしたい」という意見や希望を口に出してアイデアを煮詰めていけたのである。このような意見の通りやすい場で自分たちの発想力や想像力の向上を存分に目指せ、また成長のチャンスをつかみ取りやすいことなどが中小企業特有の魅力だと気づけたことは、私たちの職業観の視野を広めるきっかけに直結した。

三つ目は、働き方の多様性を学べたことである。勝手な先入観で無意識のうちにいつも働く人を想像する時には健常者の姿を思い浮かべていた。それなのに、口では、たとえできないがそれぞれにあったとしても健常者・障がい者関係なく働ける社会が理想的だと言っていた。今思えば、一体何をわかって言っていたのだろうと過去の自分たちを情けなく思う。なぜなら、実際に障がい者の方が働いておられる姿を見たことなどなかったからだ。職場体験で人とコミュニケーションを取ることが苦手な自閉症の方が黙々と機械を操ってむしろ率先して現場を動かしておられる姿を見て、一人ひとりに合った働き方が世の中にはあって、そして互いの不得意なところや足りないところを補っていることで社会(市場)が

回っているのだと学んだ。職場体験を終えた今こそ、ただの綺麗ごとにならないで社会の在り方について先述したことをしっかり自分の言葉で言うことができるだろう。

四つ目には、きっかけづくりになったことが挙げられる。世の中にはごまんと物があり、日々の生活の中でいちいち一つ一つをじっくり観察することはなかなか難しい。しかし、今回はシールに焦点を当てられたことで、例えばスーパーなどに行くと「こんなところにもシールが使われているのだな」とか「水滴が生じて大丈夫なようにこういうシールの素材が使われているのか」など、今まで気に留めていなかったことが目に入るようになった。そしてただ目に入るだけでなく、新しい発見がその都度あって面白いとまで思う。これは日々がより豊かになったということであり、つまり生活の視野が広がることに繋がったと言える。また、それだけでなく、ものづくりの背景を考えるきっかけにもなった。今はインターネットで買い物ができる時代であり、実際に作り手と対面することはほとんどない。私たちはそういった画面の向こう側にある、どんな人たちがどんなふう to どんな思いを込めてものづくりをしているのかをこの目で見た。本来は作り手から手渡しで買い手に商品を届け、そしてその反応をお互いに楽しむのがものづくりの醍醐味であろうが、時代の発展には抗えなからこそ、このような背景にあるものを経験できたのは貴重な学びであったと思う。

以上、活動成果としてはこの四つであるが、反対に活動結果の反省（課題）もいくつかある。例えば計画性や行動力の不十分さといったものであり、しかし、そのようなことに気付けたこともまた自分を見つめなおすための学びであると言える

つまり、私たちはこのプロジェクトを通して実にたくさんの実りある学びがあった。最後になったが、唯一無二の経験だったからこそ得られた気付きは一生ものにしたいし、さらに今度は「教えてもらった学び」から「教えられる学び」に大成させて社会の活性化に貢献していきたいという決意表明でこの報告書を締めようと思う。